

弥生時代後期の中部瀬戸内の交流

岡山市埋蔵文化財センター 寒川 史也

【講座の概要】

1. 年代観と関連する主なできごと

弥生時代の後期（今回は終末期も含める）と呼ばれる時期は、紀元後 1 世紀の半ばから古墳時代の始まりとされる 3 世紀の半ばまでのおおよそ 200 年間に相当します。この間、中国では後漢王朝が成立し、その後三国時代に至りますが、列島においては、中国の歴史書にのるようなクニグニが登場する激動の時代でありました。今回は、当時の瀬戸内地域がどのような動きをみせ、続く古墳時代のはじまりに際してどういった役割を果たすことになったのかを、「交流」をキーワードにみていきたいと思えます。

2. 考古学からみる交流のあり方

「交流」という字を引くと、「異なる地域・組織・系統の人々が行き来すること。また、その間でさまざまな物事のやりとりが行われること」と定義づけられています。考古学は、モノの特徴やその分布から歴史事象を明らかにしていくことを得意とします。ここでは、日常生活に関係する土器や竪穴住居などの遺物・遺構の中で、人やモノの動きの内容やその背景を類推できるような例を紹介します。

3. 弥生時代後期の中部瀬戸内

弥生時代の中期末以降、考古遺物からみる瀬戸内の交流は、にわかに活気づきます。他地域の土器が運ばれる事例が増え、祭祀遺物も地域間で共有されました。その流れは、弥生時代後期も後半の時期に入ると一層加速し、さまざまな面において交流が活発化したことがうかがえます。こうした地域間の交流には当時の複雑な政治・社会的な関係が影響していたと考えられ、吉備南部の平野においては集落や墓制の内容に変化が生じ、地域的な結集がみられるようになります。

4. 古墳時代初頭にかけての地域の交流

古墳時代に入り古墳に採用された円筒埴輪は、吉備の特殊器台から派生したものでありますが、このように中・東部瀬戸内の弥生墳丘墓にみられる各要素で、古墳に受け継がれるものは多々存在します。つまり、これらの地域は古墳の発生という点で、重要な役割を果たしたことが分かりますが、これは弥生時代の終わりの段階での地域の結びつき方を反映している面があります。

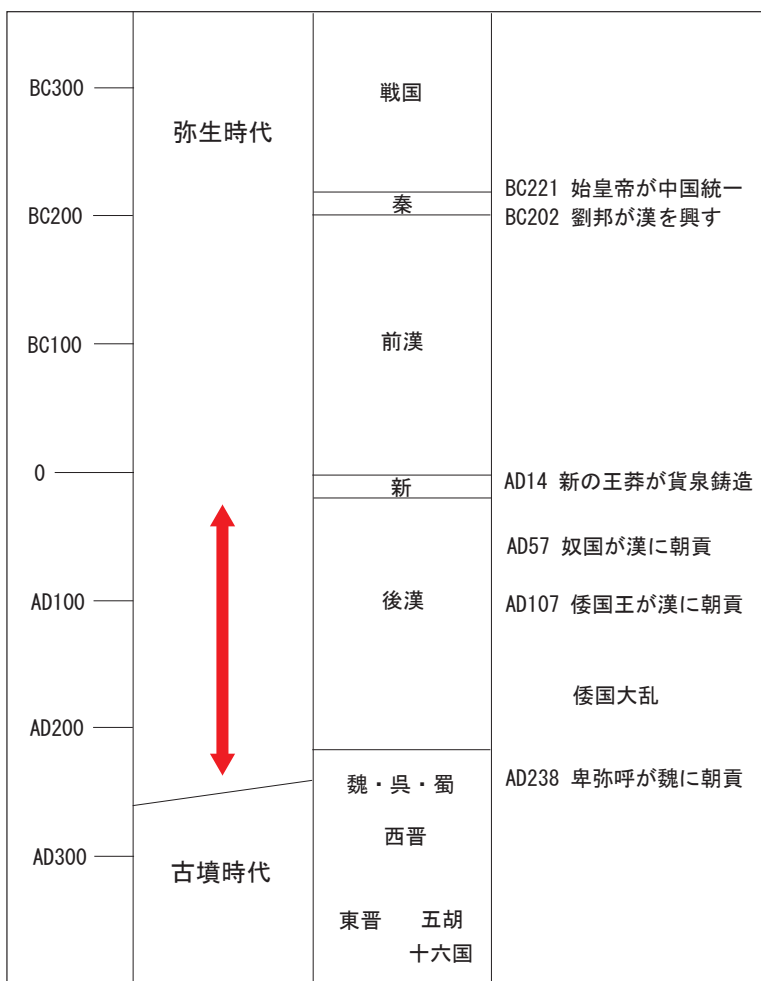


表1 関連年表

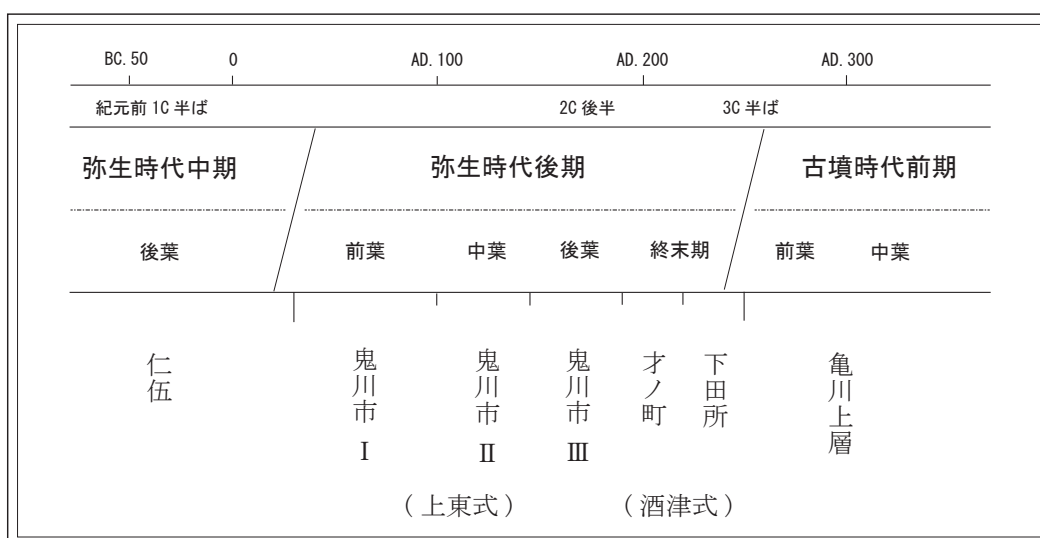


表2 土器編年との対応

②

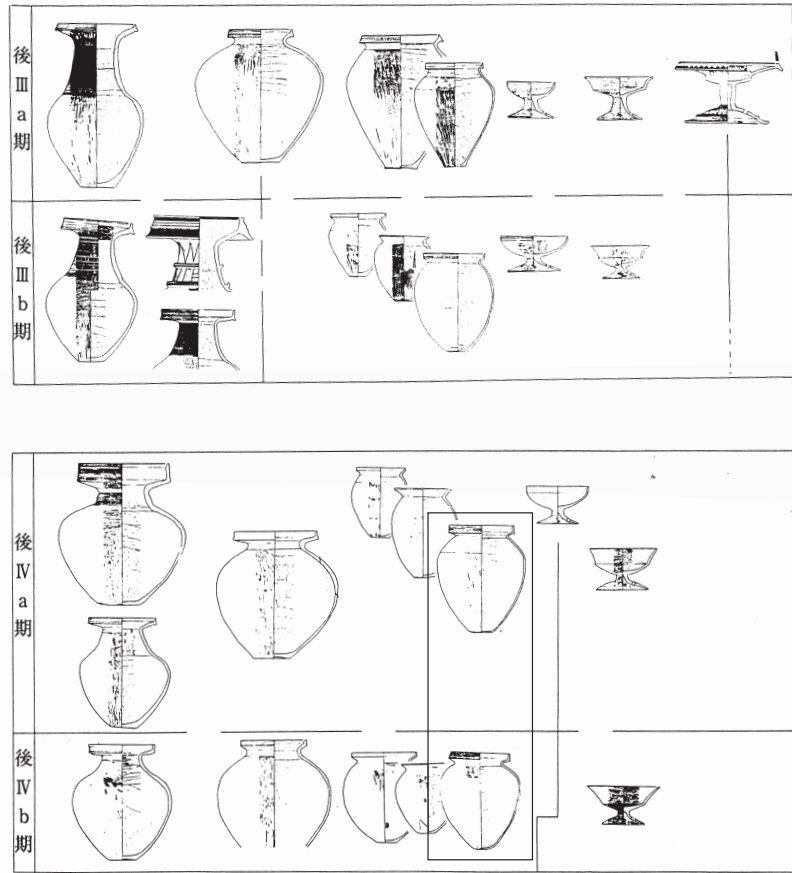


図1 岡山南部の土器の変遷

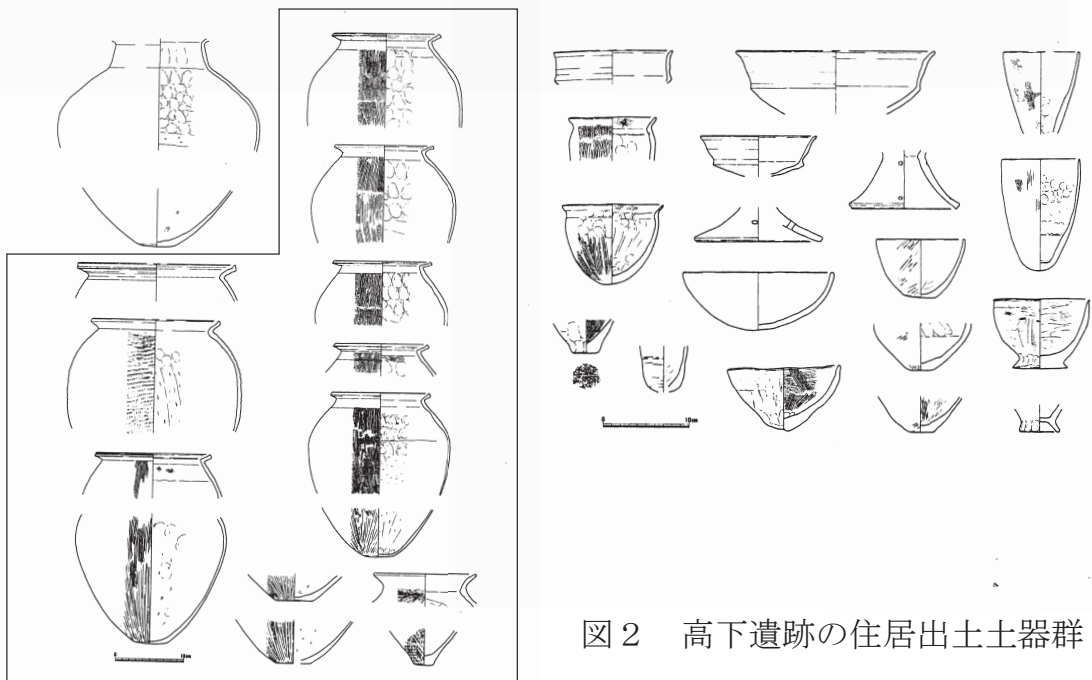
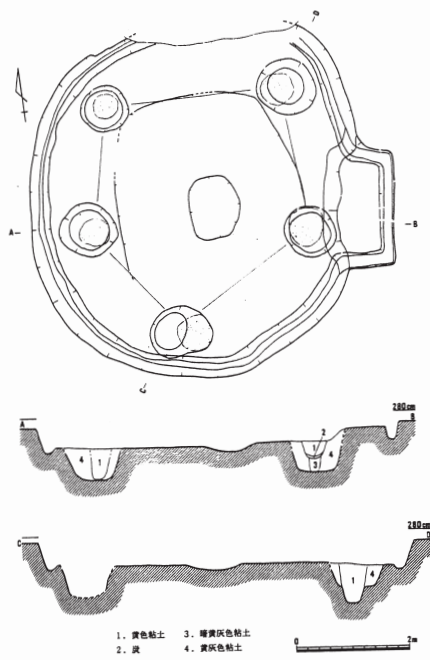
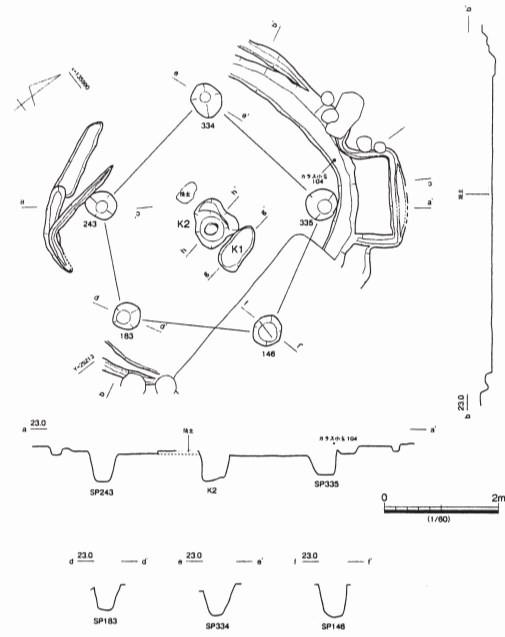


図2 高下遺跡の住居出土土器群



岡山県〈足守川加茂B遺跡〉



香川県〈旧練兵場遺跡〉

図3 張り出し部をもつ住居址の例

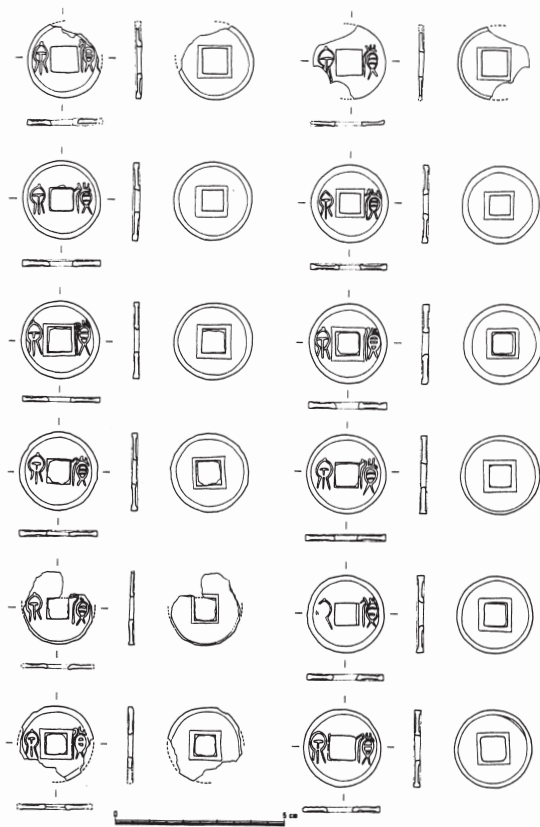


図4 高塚遺跡
出土の貨泉

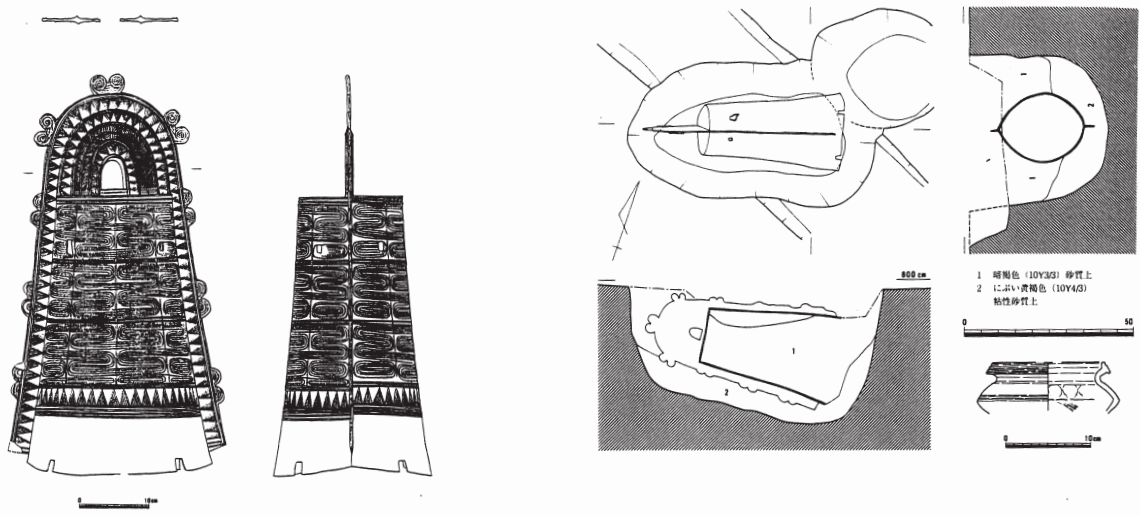


図5 高塚遺跡出土銅鐸と出土状況

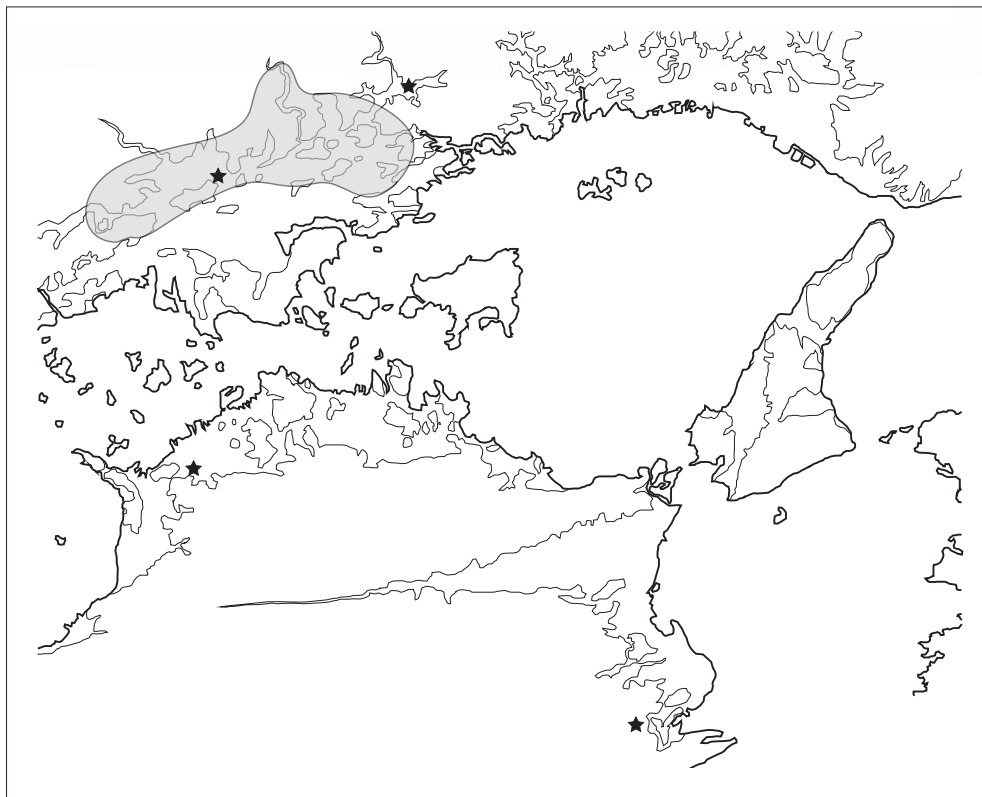


図6 岡山周辺の後期前半の土器（上東式）と銅鐸の分布

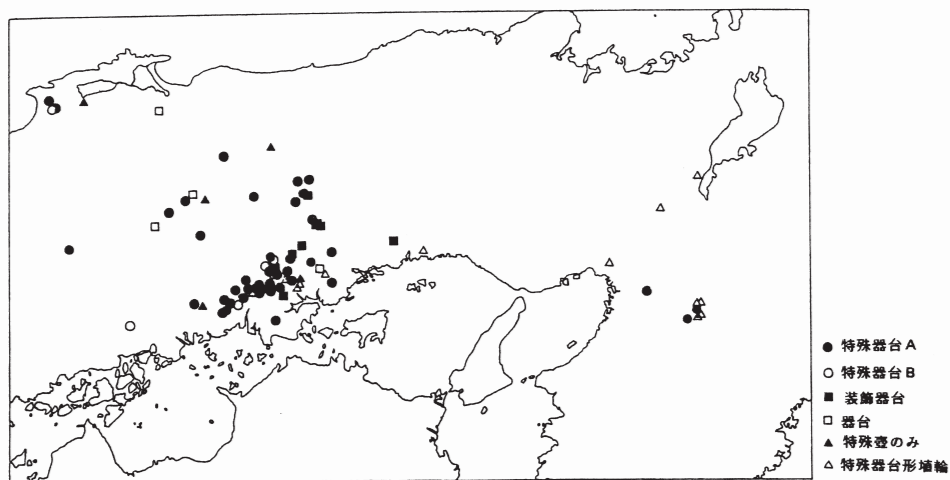


図7 特殊器台の分布

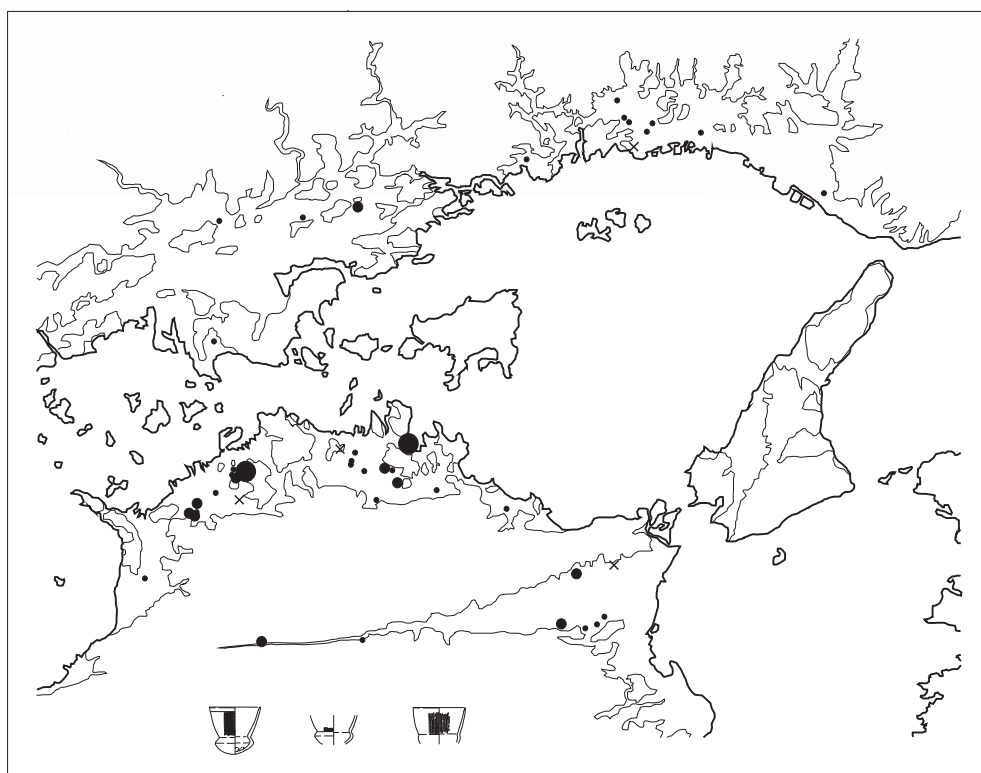


図8 弥生時代の終わり頃 四国系小型丸底壺の分布

<参考文献・図出典>

図1：岡山市教育委員会 1999『長坂古墳群』 図2：岡山県教育委員会 1998「高下遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』123 図3：岡山県教育委員会 1995「足守川加茂B遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』94, 香川県教育委員会 2011『旧練兵場遺跡Ⅱ』 図4・5：岡山県教育委員会 2000「高塚遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』150 図7：香芝市教育委員会・香芝市二上山博物館 2002『邪馬台国時代の吉備と大和』